

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
I	1	(1)	①	理念が明文化されている。	b	法人としての保育園の使命, 役割, 基本理念が文書化され, パンフレット, ホームページなどに掲載している。 事業計画が年間の行事計画になっているので, 理念等についても記載することが望まれる。
I	1	(1)	②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	b	パンフレットやホームページ, 職務心得に保育理念等を明示しているが, それぞれの表現方法を統一することを期待する。
I	1	(2)	①	理念や基本方針が職員に周知されている。	b	理念や基本方針を職務心得に明示し, 年度初めの研修や職員会議の際に説明をしているが, 理念や基本方針を統一したうえで周知することが望まれる。
I	1	(2)	②	理念や基本方針が保護者等に周知されている。	b	入園のしおりやパンフレット, 保育園だよりに理念等を明示し, 入所式や保護者会などで説明するとともに, ホームページに明示している。
I	2	(1)	①	中・長期計画が策定されている。	c	今後の法人の方向性を示す原案を確認したが, 中・長期計画を策定するには至っていない。 組織体制に関わる現状分析を行い, 課題や問題点を明確にしたうえで, 中・長期計画を策定することが望まれる。
I	2	(1)	②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c	保育目標を達成するための行事計画は策定しているが, 行事等の実施計画となっているため, 中・長期計画を踏まえた事業計画の策定を期待する。
I	2	(2)	①	中・長期計画や事業計画の策定が組織的に行われている。	c	中・長期計画や事業計画の策定にあたり, 職員参画による会議などの場が設けられておらず, 計画等も策定されていないので, 組織だった計画づくりとするため, 職員参画による事業計画の策定することが望まれる。
I	2	(2)	②	事業計画が職員に周知されている。	c	年間の行事計画を作成し, 職員に周知しているが, 事業計画を策定するには至らないので, 事業計画を策定し, 職員に周知することを期待する。
I	2	(2)	③	事業計画が保護者等に周知されている。	c	年間の行事予定表や園便り等で保護者に周知しているが, 事業計画を策定するには至らないので, 事業計画を策定し, 保護者に周知することを期待する。
I	3	(1)	①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	c	職務分掌に管理者の責任と役割を明らかにすることを期待する。
I	3	(1)	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	経営改善のための研修会に参加するとともに, 遵守すべき法令についてのリスト化はしているが, 職員会議の際に法令についての研修を実施して正しい理解に向けた取り組みを期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
I	3	(2)	①	質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	保育サービスの質の向上についての意欲を持っており、公開保育や内部研修などを実施してその指導力を発揮しているが、研修記録を残し振り返りを行うなどの取り組みを期待する。
I	3	(2)	②	経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	業務の効率化や改善に向けて、人員配置や職員の働きやすい環境整備などを目指し、年休の勤めや事務簡素化について指導力を発揮している。 組織内の意識形成のため、職員からの業務効率化・改善に対する提案等が出来る仕組み作りに期待する。
II	1	(1)	①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	事業全体の動向について、関係する計理士の情報を得るとともに、制度改革についての会議や経営改善にむけた研修等を受講するなど、社会福祉事業全体の動向などの把握に努めている。 保育所が位置する地域での保育に関する具体的なニーズの把握などに積極的に取り組むことを期待する。
II	1	(1)	②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	c	経営状況の分析結果などの確認が出来なかったため、職務分掌において経営状況の把握・分析を行い、各年度の事業計画に反映されることを期待する。
II	1	(1)	③	公認会計士等による外部監査が実施されている。	b	計理士が外部監査を実施し、コンサルティング的な指導を受けるなど、経営改善に取り組んでいる。
II	2	(1)	①	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	c	保育士や看護師、栄養士、必要な人材を確保しているが、必要な人材についての具体的な採用プラン等が確立していない。
II	2	(1)	②	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	c	職員への個別面談や職員による自己評価などは実施しているが、客観的な基準に基づいた定期的な人事考課は実施していない。
II	2	(2)	①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	個別面談や毎月実施する自己評価において職員の就業状況などを把握して改善への資料としているが、組織としての改善のための仕組み作りが確立していない。
II	2	(2)	②	福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	b	県の民間社会福祉施設従事者互助会・社会福祉法人福利厚生センターに加入している。 その他に事業主が2分の1費用を負担し、親睦会・旅行等実施しているが、職員の要望に対する取り組みを取り入れることを期待する。
II	2	(3)	①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c	研修参加について、職員一人ひとりの個々の必要性に応じた参加希望申出書等の伺いの仕組みがない。 人材育成に関する職員の研修体制の確立を期待する。
II	2	(3)	②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	c	職員一人ひとりについての教育・研修計画を策定することを期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	2	(3)	③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	c	研修会に参加した職員は、報告レポートを作成し、職員会議等で伝達しているが、個別の計画が策定していないので、評価・見直しをするまでには至っていない。
Ⅱ	2	(4)	①	実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	実習担当者が定められており、マニュアル化はしていないが、連絡窓口、事前説明などを行っている。 実習生の受け入れに対する基本姿勢の明文化を期待する。
Ⅱ	2	(4)	②	実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	b	実習生の受け入れを行っており、学校から提示されたプログラムにそった実習内容により育成している。 保育園としての独自のプログラムの作成を期待する。
Ⅱ	3	(1)	①	緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など子どもの安全確保のための体制が整備されている。	b	緊急時のマニュアルや連絡網(メールにて全職員に発信)を整備している。 安全・衛生委員会を月一回開催して緊急時の対策等の話し合いをしている。 職員会議の終了後に危機管理の話をして常に子どもの安全確保を図っている。 安全確保に関する担当者・担当部署の設置の検討を期待する。
Ⅱ	3	(1)	②	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	b	ヒヤリハットの報告が各保育担当の職員から報告されているが、事後対策としての安全を脅かす事例の収集や原因分析・事故防止に関する職員の研修などを、組織として取り組むことを期待する。
Ⅱ	4	(1)	①	子どもと地域とのかかわりを大切にしている。	b	子ども達は地域の出初め式や夏祭り、産業フェア等で楽器の演奏等を行い地域との交流を図っている。 また、管理者や職員が出前保育、子育て支援、一時保育などに取り組んでいる。 パンフレットや掲示板で保育内容について、園児以外の保育者へ周知することを期待する。
Ⅱ	4	(1)	②	保育所が有する機能を地域に還元している。	a	地域住民との交流を大切にし、子育て支援センターでの遊び、子育て相談、子育て中の親同士の仲間が出来る空間づくり、高齢者施設で演奏会、中学校の職業体験の受け入れを行っている。
Ⅱ	4	(1)	③	ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c	園のカリキュラム等により、ボランティアの受け入れを行っていない。 ボランティアの受け入れにより、外部の視点や考え方が入ることから、受け入れに対する体制づくりを期待する。
Ⅱ	4	(2)	①	必要な社会資源を明確にしている。	b	緊急連絡先や関係機関・団体についてリスト化や資料を作成するとともに、事務所に掲示している。 緊急時に対応できるよう各階や各保育室にリスト化したものを備えることを期待する。
Ⅱ	4	(2)	②	関係機関等との連携が適切に行われている。	b	医療機関・児童相談所・学校との必要に応じた連携しているが、定期的な連絡会や具体的な課題・事例を検討する等の機会づくりを期待する。
Ⅱ	4	(3)	①	地域の福祉・子育てニーズを把握している。	b	子育て支援センターや一時保育、出前保育などで地域の福祉・子育てに関わるニーズの把握を行っている。 子育て支援センターで得られた、具体的な子育てのニーズを分析・把握に努めることを期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	4	(3)	②	地域の福祉・子育てニーズに基づく事業・活動が行われている。	b	把握した子育てニーズに基づいた一時預かり保育事業や子育て支援センターの開設, 病後児保育も実施しているが, 具体的な事業活動は, 中・長期計画や事業計画に明示することを期待する。
Ⅲ	1	(1)	①	子どもを尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	b	子ども一人ひとりが楽器等の得意な分野で活躍する場の設定等を行っている。 子ども一人ひとりを尊重した保育の実施について明示することが望まれる。
Ⅲ	1	(1)	②	子どものプライバシー保護に関する規程又はマニュアル等を整備している。	b	個人情報保護や守秘義務などについて, 職務心得に「個人情報守秘義務の厳守」を明示し周知するとともに, 研修を行っている。 子どもの写真等がパンフレット等にふんだんに掲載されているので, プライバシー保護のマニュアルを見直すなど, 個人情報の取り扱いについて配慮することが望まれる。
Ⅲ	1	(2)	①	保護者の満足の向上を意図した仕組みを整備している。	b	保護者との懇談会, 保育参観を実施し, 満足度の向上を図っているが, 意見箱の設置やアンケート調査など, 満足度の向上を意図した仕組みを整備していくことを期待する。
Ⅲ	1	(2)	②	保護者の満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	保護者会での意見を聞き, 検討し, 応じられるものと応じられないものとに分け, 保護者の要望などは延長保育や土曜保育の実施として取り組んでいる。
Ⅲ	1	(3)	①	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	b	相談は随時保育士が受け付け, 内容に応じて, 主任, 担当者に相談している。 身体の相談は看護師に, 給食面は栄養士が相談を受けている。 保護者会などで意見を述べる機会を設け, 苦情受付簿を整備している。 相談の受付担当者を決めるなど, 体制づくりを期待する。
Ⅲ	1	(3)	②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	c	苦情についての受付担当者・解決責任者・第三者委員などを置いて苦情解決に向けた仕組みを確立するとともに, 苦情を受付けた場合は記録し, 直ぐに対応している。 外部の第三者委員等の周知や苦情内容に対する対応等について, 園便り等で報告するまでには至っていないので, 入園のしおりや掲示板等で周知することを期待する。
Ⅲ	1	(3)	③	保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	c	保護者からの意見や苦情については主任が確認し, 内容によって園長に報告, 解決方法の検討をする等の取り決めをしているが, 保護者からの意見等に対する対応マニュアルを整備するには至っていない。 苦情等について職員誰もが対応できるよう, 対応マニュアルを整備することを期待する。
Ⅲ	2	(1)	①	保育サービスについて定期的に評価を行う体制を整備している。	b	各職員によるそれぞれの業務についての反省として, 月間評価を実施するとともに, 会計士によるコンサルティングを受けている。 保育サービスについて, 定められた評価基準に基づいた自己評価の実施を期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	2	(1)	②	評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	b	コンサルティングの結果を受け、課題等を把握している。第三者評価を受審しており、評価の実情を踏まえ、組織として取り組むべき課題改善への取り組みを期待する。
Ⅲ	2	(1)	③	課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	b	第三者評価の受審により、課題となっている中・長期計画の策定等について、改善策・改善計画を作成し、課題の解消に向けた取り組みを期待する。
Ⅲ	2	(2)	①	個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	0, 1歳児の授乳、おむつ交換等の保育サービスについて文章化するとともに、体育プログラムや食育、衛生、災害などの保育場面に応じた実施方法が文書化されている。
Ⅲ	2	(2)	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	法人の運営する別の保育園と合同で年度末の他、学年毎に見直しを行っている。検証・見直した経過が解るよう、記録に残すことを期待する。
Ⅲ	2	(3)	①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	b	2歳児までの生活状況等については、保育日誌や複写式の連絡ノート等に記録するとともに、内容をクラス担当や管理者等が確認している。 3歳児以上の子どもについても、保育日誌に記録しているが、一人ひとりの発達状況、保育目標、生活状況の記録が適切に行われることを期待する。
Ⅲ	2	(3)	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	記録の保管、管理を適切に行っている。個人情報保護や情報の開示については、職員会議等で職員に伝えている。文書の保管、保存、廃棄などの年限等、文書管理規程の整備を期待する。
Ⅲ	2	(3)	③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している。	b	子どもの状況等について、クラス会議・学年会議などで情報を共有している。 ケース検討については、クラス会議の際に主任や看護職員が参画している。 障害のある子どもについての情報は全職員が常に共有している。 保育の実施に当たり特に留意すべき事項がある場合には、回覧にて職員間の共有を図っている。
Ⅲ	3	(1)	①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	b	ホームページやパンフレットを作成して保育園の理念や保育内容、一時保育、病後児保育などの福祉サービスの内容など必要な情報を公開している。 サービスの選択に必要な情報の提供を期待する。
Ⅲ	3	(1)	②	サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	b	利用の説明にあたっては入園のしおり等具体的でわかりやすい説明資料を用意し、説明している。 保護者に説明と同意を得る書類の整備を期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	3	(2)	①	保育所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	c	保育園の変更などに際してのサービスの継続性に配慮した対応は、個人情報保護の関係から、変更先から問い合わせがあった場合に対応している。 子どもの保育に関する継続性が得られるよう、手順等を定めることを期待する。
Ⅲ	4	(1)	①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	b	家庭調査表などにより独自のアセスメントを行い、4カ月後に家庭調査表の記述の確認を行っている。 子どもの状況は、4半期毎にクラス会議や学年会議にて、管理者等の助言を得て協議を行い、見直ししている。
Ⅲ	4	(1)	②	子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	b	0～2歳児についてはアセスメントに基づいた個別の課題を個人めあてに明記している。 3歳～就学前の子どもについてのサービス場面ごとの課題について、明示することを期待する。
Ⅲ	4	(2)	①	サービス実施計画を適切に策定している。	b	保育計画は、クラス会議や学年会議にて協議を行い策定するとともに、管理者等の同意を得ている。 一人ひとりの子どもについて健康面への配慮、生活の場としての基本的な援助、子どもの発達の視点に立った援助、保護者の意向への配慮など、総合的な視点で見据えた指導計画の策定を期待する。
Ⅲ	4	(2)	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行なっている。	b	クラス会議で指導計画を作成し、4半期毎に評価、見直しを行い、管理者が確認している。 子ども一人ひとりに対する指導計画についての評価、見直しを行うことを期待する。
Ⅳ	1	(1)	①	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	採光、換気等に配慮している。 手洗い場、トイレの清潔さの維持を心がけており、アルコールによる消毒、エアータオルを使用している。 寝具は週1回家に持ち帰り洗濯、布団を干して乾燥を行うなど、衛生面に配慮している。 園庭の砂を使ってままごと遊びなどをする機会はあるが、園庭の定期的な消毒は行っていない。
Ⅳ	1	(1)	②	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	a	職務心得の保育に関することを明文化し、子どもとのふれあい、業務の心得など、子どもへの配慮がなされている。 子ども達の目線で、給食室がよく見えるよう配慮している。 音への配慮、屋外における活動の場の確保など、生活の場にふさわしい環境を整備している。
Ⅳ	2	(1)	①	食事を楽しむことができる工夫をしている。	a	育てた野菜を食べる事はないが、食物を色分けした表(肉一赤、野菜一緑、エネルギー源一白)を貼り出し食材の確認をしながら楽しく食育・食事ができるように工夫している。 おかわりを自由にできるようにして、一人ひとりが摂取可能な量を食べる事が出来るようにしている。 味噌や沢庵、梅干など栄養士によって手作りされており、自然で安全な食材の味を楽しめるようにしている。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
IV	2	(1)	②	日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	a	献立表を作成し、掲示するとともに、家庭に配布している。保護者が保育参観の際に試食する機会を作り、食事への関心を持たせるようにしている。サンプルを掲示し、量と献立内容を知らせている。必要に応じてレシピを知らせている。発達過程にある子どもの食事の重要性を保護者に伝えている。
IV	2	(1)	③	専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	a	嘱託医との連携を図り、指示書に従って、除去食や代替え食を実施している。全職員にアレルギー疾患について、知識や情報を周知している。
IV	2	(1)	④	必要とされる栄養摂取量を確保する献立が作成されている。	a	栄養士により、年齢に応じて適切な栄養摂取量を考慮した献立を作成している。
IV	2	(1)	⑤	「食育」に取り組んでいる。	a	大勢で協力して長い海苔巻きを作ったり、梅干作りの体験や芋ほりなど季節ごとの行事をとおして食育に取り組んでいる。親子でおやつ作りをする親子クッキング教室などの機会も設けて食育に積極的に取り組んでいる。保護者を対象とした食育講座開催や祖父母を対象とした「育じい、育ばあ座談会」なども食育の場としている。
IV	2	(2)	①	登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	a	健康管理のマニュアルを作成し、入園のしおりに朝の検温、病気、感染症、投薬について明記している。既往症や予防接種の状況など健康に関する情報は、基本情報や家庭調査票で把握している。病後児保育を実施している。
IV	2	(2)	②	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	b	年2回全員が健康診断を受け、健康診断の結果を保護者に伝えている。看護師を中心に職員会議にて職員に伝達し、必要に応じて保育に反映している。健康診断の結果について、全職員が共有できる方法の体制整備が望まれる。
IV	3	(1)	①	子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	b	子どもと接する場面において、受容的な関わりで接している。子ども一人ひとりの違いを意識した指導計画に基づく(3歳～就学前)子どもの内面や家庭環境などを十分に理解し、検討することを期待する。
IV	3	(1)	②	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	b	0～2歳児について、一人ひとりへの丁寧な関わりを行っている。3歳～就学前の子どもに関しては、クラス単位で一斉にトイレに行く事や午睡のできない子どもへの対応等、それぞれの状況に応じた適切な対応ができるよう検討することを期待する。
IV	3	(1)	③	子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	b	園庭での体育ローテーションや音楽活動など全員で行動する機会が多く、自発的な活動場面は少なくなっている。園庭の遊具や保育室の道具等子どもが自由に遊べる環境を整備している。子どもが室内でお絵かきや折り紙など、自由に遊べる素材や用具の整備がされることを期待する。

福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
IV	3	(1)	④	身近な自然や社会と関わられるような取り組みがされている。	a	お茶会や節分、ひな祭り、餅つきなど日本の伝統的な行事などを取り入れるとともに、和太鼓やブラスバンドの演奏などで地域社会との関わる取り組みをしている。
IV	3	(1)	⑤	さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	b	作品展へ向けた制作活動やクリスマス会、和太鼓の発表会などさまざまな表現活動の場を設けている。 絵本の読み聞かせ等も取り入れている。 クレヨン、絵の具、折り紙など、子どもが自由に取り出して使えるような工夫を期待する。
IV	3	(1)	⑥	遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	a	子ども達は、当番活動や全員参加で行われる楽器の演奏、合唱等を通して協力しあうことで楽しみを得る等、人間関係の大切さと社会的ルールを身につけられている。
IV	3	(1)	⑦	子どもの人権に充分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	b	保育方針の一つでもある国際感覚を育む活動として、異文化にも接する機会を設け、お互いに尊重し合う心を育てる取り組みを行っている。 子どもの人権に関する内容等について、理解を得られるよう、職員間で話し合う機会を設けることが望まれる。
IV	3	(1)	⑧	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	a	保育の中で男女の違い等を意識することなく、常に一人ひとりの発達を保証した子ども像を持って接している。 子どもの態度や好みの色、職業などについて固定観念や役割分業意識を植え付けるような言葉かけや対応をしないような配慮をしている。
IV	3	(1)	⑨	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	保育室は明るく静かな環境を確保している。 ほふく室は床暖房を整備している。 担当者は一人ひとりを抱っこして目を合わせ、微笑みかけながら授乳をしたり、寝返りのできるようになった子どもには特に注意をする等の取り決めをして丁寧な関わりをしている。
IV	3	(1)	⑩	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	子どもの安全性に配慮して、時間に応じて保育スペースを段階的に集約するなど状況に応じた対応しており、延長保育時間の8時を過ぎた場合には職員室で過ごせるような取り組みも行っている。 18時を過ぎて預かっている子どもには、夕食に支障をきたさないようおにぎり等の軽食を出している。
IV	3	(1)	⑪	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	b	看護師と保護者、担当保育士が連携を取りながら、その子どもの発達に応じたカリキュラムによる保育をしている。 自閉的な傾向をもつ子どもについての正しい情報の入手はなく、適切な保育内容の検討に至っていない。 今後、子どもの特性に合わせた関わりについて、専門医と職員が検討する機会を設けることを期待する。
IV	4	(1)	①	一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	b	送迎の際、必要に応じて保護者と話し合う機会を作り、0～2歳児は連絡帳への記載をし、情報交換や子育ての相談に取り組んでいる。 3歳以上の子どもの場合、特別なことがあった場合のみ個別にメモを渡して、返事を頂くこととしている。 掲示板の利用や個別面談(年1回)などをおして情報の交換を行っている。



福祉サービス第三者評価結果(個票)

対象	分類	項目	細目	内容	評価結果	判断根拠・特記事項等
IV	4	(1)	②	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	a	家庭の状況や保護者との情報交換の内容は確認し合い、保育士同士でばらつきがないようにしている。
IV	4	(1)	③	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a	さまざまな発表会や親子クッキング教室の開催など、保護者が園に出向く機会や話し合いの場を設けている。 保育参観の後に希望する保護者には懇談会の機会を設けている。 クラス毎の懇談会を開催することを期待する。
IV	4	(1)	④	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに施設長まで届く体制になっている。	a	マニュアルを整備し、全職員に周知するとともに、虐待への認識を深めている。 早期発見に努め、送迎時の様子や寒風摩擦の際に観察し、速やかに管理者に伝える体制作りをしている。
IV	4	(1)	⑤	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	a	虐待が疑われた場合には写真を撮り、児童相談所、保健所、役所、関係機関に照会・通告を行う体制作りをしている。
IV	5	(1)	①	一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	a	部屋の用意や担当者を決めるなどの体制を整備している。 子ども一人ひとりの状態に考慮し、他の子どもたちとの交流を図るよう配慮している。 保護者との情報交換を十分に行うことにより、子どもの日々の状態を把握している。
IV	6	(1)	①	調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	a	安全衛生委員会を設置し、月1回委員会を開催して季節に応じて衛生管理について検討している。 日々の衛生管理は、衛生管理マニュアルにそって適切に実施している。